

令和 8 年度 第 3 回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会議事要旨

日 時：令和 8 年 6 月 18 日(木) 17：00～18：30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

参加者：12 名

赤松道成（北部地区医師会病院）、山本孝夫（県立八重山病院）、有銘みどり（北部地区医師会病院）、西原政好（県立宮古病院）、真栄里隆代（ゆうかぎの会）、砂川 綾子（県立八重山病院）、友利寛文（那覇市立病院）、戸板孝文（県立中部病院）、吉田幸生（県立中部病院）、古波津万里子（沖縄県保健医療介護部健康長寿課）、知念崇（琉球大学病院がんセンター）増田昌人（琉球大学病院がんセンター）

欠席者：3 名

安次嶺宏哉（沖縄協同病院）、下地千里（県立宮古病院）、田盛亜紀子（やいまゆんたく会）

陪 席：2 名

酒向摩貴子（沖縄県保健医療介護部健康長寿課）、豊福真理子（琉球大学病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和 8 年度 第 2 回離島・へき地部会議事要旨について

西原委員より、資料 1 に基づき、説明があった。

2. 北部・宮古・八重山医療圏における血液内科外来・腫瘍内科外来・放射線治療外来の達成状況について

西原委員より、資料 2 に基づき、報告があった。

増田委員より外来治療について各担当医から状況報告を求めた。

戸板委員：北部地区医師会病院において、今年度より月 1 回カンファレンスに参加し、患者紹介を受け、中部病院での放射線治療を実施している患者が複数いることが報告された。県立八重山病院においても月 1 回の放射線治療外来を継続して実施しており、本島の医療機関への紹介につながっているとの報告があった。

吉田委員：宮古病院及び八重山病院において、がん遺伝子パネル検査やセカンドオピニオン対応、カンファレンスによる連携を行っているとの報告があった。

知念委員：北部地区医師会病院に月 1 回訪問し、外来診療は行わず、外科カンファレンスに参加し、irAE の個別症例について相談対応を行っているとの報告があった。今後は具体的な対応手順の検討を進める予定であるとの報告があった。

3. その他

【協議事項】

1. 離島・へき地部会が所掌する分野の第4次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会版）の中間評価について

(1) 第4次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会版）ロジックモデルの確認

増田委員より、資料3に基づき、説明があった。

(2) 個別政策の中間評価について

増田委員より、各施策について、委員からの意見を踏まえ、現状と課題について意見交換が行われた。

2 拠点病院の指定要件の変更に対する提案について

増田委員より、7/31に拠点病院の指定要件の公表がある。何か要望や提案がある場合は、増田委員にメールで送ってほしいとの依頼があった。

現行の施策の効果を評価する必要性を強調し、参加者の意見を取りまとめた上で最終的な部会意見として提出する予定であると説明があった。

3. 次回の開催日について

7月開催

4. その他

離島・へき地におけるがん診療について、「専門外来により一定の診療はできているが、継続的な治療体制には限界がある」との意見があった。

これに対し、「化学療法の継続や副作用対応は現地医師の負担が大きく、月1回の専門外来だけでは対応が難しい」との指摘があった。

また、「専門医が不足しており、一部の医師に負担が集中している状況がある」との課題も共有された。

放射線治療については離島での実施が不可能であり、本島医療機関との連携を前提とした体制が機能している一方で、遠隔相談等を含めた連携強化が求められた。さらに、腫瘍内科領域では化学療法の継続管理や副作用対応が課題であり、月1回の専門外来のみでは十分な対応が困難であり、月2回の実施が理想的であることが確認された。このため、オンコジェネラリストの育成や二人主治医制の導入など、地域と専門医が連携した持続可能な診療体制の構築が必要であるとの認識が共有された。加えて、地域医療機関における人材育成や教育機会の確保、医師間の継続的な連携体制の構築も重要であるとの意見があった。